

チエリツプ
四季だより



1998. 冬号
Vol.5

日本産チューリップで 狂って万歳！「私の人生」

園芸研究家・植物写真家

高橋 勝雄



ヤマユリ.....私が小学一年生のときに描いたユリのモデルはヤマユリかもしれません。

いわれて、私はユリを選びました。終戦の年で画用紙がなく、新聞紙が雑誌にクレヨンで塗りまし

た。母が学校へ参観に行つたとき、担任の先生が、「こんなに上手にできたのに、画用紙がなくて残念ですわ」とお世辞で言ってくれたのを、今でも覚えています。

チューリップより複雑なユリを描いたのは、私がチューリップを見たことがなかったからです。

戦災で焼けるまで住んでいた家のまわりはもろ

ろのこと、縁故疎開でやってきた、群馬県の万場小学校でも見かけませんでした。チューリップは「敵性の花」として日本国民は育ててはいけないという風潮があつたのかもしれない。あるいは、食糧難の時代でどこの花壇も菜園になつていたためかもしれません。

戦争が終つて、横浜に戻りました。小学校でも中学校でも、チューリップはまだ植わっていませんでした。中学生の頃、横浜港へ釣りに行つた帰途、外人の住む町を歩いていま

した。当時、横浜の目ばしい所は、駐留軍に接収されていました。金網の向う側に広々とした芝生と米軍将校の住む大きな家がありました。家のそばに花壇があり、長い花茎の上に赤い花が咲いていました。あれが本などで見たチューリップだと分かりました。そのとき、思いました。いつか、芝生のある家に住み、花壇にはチューリップを植えようと。

それから十何年か経ちました。がんばったかいがあり、結婚と同時に庭つきのマイホームに住むことができました。念願だったチューリップの球根を植えました。

しかし、理想としていた広々とした芝生に大きな家とは、かけ離れた、小さな庭に小さな家でした。

このころは、私は全くの花音痴でした。花といえば、桜とバラと梅とチューリップくらいしか知りませんでした。一方、植木屋の娘であつた家内は、花の名は結構知っていました。

「これはツツジなの。あなたはツツジも知らないの」と家内にバカにされていました。「ようし今に見て

ろ」と発奮し、花の勉強を始めたのです。花のことで、家内を追い越すのが目的の花作りが始まりました。

当時、親戚の人たちに、こんな陰口を言われていました。「あの高橋のどこじゃ、親子でチューリップに狂っている」と。「えっ！どうして？」。

「倅の方は、花のチューリップを植えて喜んでる。一方、親爺の方は、パチンコのチューリップを開かすのに夢中になつてる」と。

その後、私は盆栽にも手を伸ばしていきました。その頃は、園芸の世界にはまっていました。知識は家内を抜いていました。「打倒！家内」と



ツツジ.....この花はカザンジマツツジといいます。

いう、ひそかな目的は果たしました。その頃、親戚の人たちは、こんな悪口を言っていました。

「あの高橋のどこじゃ、世間とアベコベだ。倅が盆栽にこつて、親爺がボウリングにうつつをぬかしている」と。

言われるとおり、父は年がいもなく、マイボールを作り、ユニホームを製作して遊んでいました。

そんなある日、植物の会主催の野山の花観察会に参加しました。早春の暖かな日でした。私は講師の先生のすぐ後方を歩いていました。先生が立ち止まって道端を指さし

ました。「あつたよ」と。そこに白色の星形の花が地

際に咲いていました。「アマナだよ

日本のチューリップなんだ。これの

学名はチューリップというんだ」と

先生。

私はアマナの花を見ながら、心の中

で思いました。「わが家の庭のチューリップに比べると、ずい分見す



キバナノアマナ.....アマナとつきますが、Gagea(ガゲア)属。チューリップ属ではありませんが、自然の残る丘に見かける花。早春の日だまりで、けなげに咲いています。

に残る花でした。きつと、チューリップの原種も、アマナと似ているかもしれないと思うと、アマナをいとおしく思っていました。

アマナの花が原因で、山野草にのめりこみます。そして、四

十四歳のとき電機メー

カーのサラリーマン

から、花の本を出

したり、花の記事を

書くだけで、食べて

いくという“危険な

道”へと転身します。

日本のチューリップが私の人生を大きく変えてしまうきっかけとなりました。

今では、そのことが、とてもよかったと思っています。



アマナ.....学名がTulipa edulis(チューリップ エデュリス)となっていました。花や苞などからAmana属に変更する説が登場。私は、やはりTulipa(チューリップ)属のままを支持したいですね。

略歴



たかはし かつお

一九三八年横浜市生まれ。

一九六五年ごろから、山野草、野生ラン、エビネを趣味で栽培。

一九八三年にサラリーマンから

へ植物写真と園芸書出版への道へ転身。

現在、園芸研究家・植物写真家としてNHKテレビ趣味の園芸でもおなじみ。

パルコ毎日新聞カルチャーシテイ講師、日本フラワーデザイン専門学院講師、ユーモア園芸の提唱者。山野草保護の啓蒙活動も実施中。

著書には「春の山野草100」

「夏の山野草100」秋の山野草」

(以上NHK出版)「野の花に親しむ」(五巻と別巻)「日本エビネ

花譜 正読七巻」「山野草おもしろ図鑑」(以上毎日新聞社)「育て

る山野草」(ひかりのくに)「高橋勝雄の花と遊ぶ」(日本ヴォーグ社) ほか多数

オランダの チューリップ栽培

チューリップ王国
オランダ



チューリップといえはすぐにオランダを思い浮かべるように、オランダは世界最大のチューリップ球根の生産地です。しかし、その歴史をさかのぼると、オランダに最初のチューリップ球根がもたらされるのは十六世紀後半になってからのことです。フランス人植物学者C・クルシウスによって始められたチューリップ栽培は、その後瞬く間にチューリップの名とともに国中に広まっていきました。育種家達は、輸入した球根からオランダの気候にあつた園芸品種を作り出すことに力を注ぎます。彼らの長年にわたる努力によって、現在オランダでは様々な色、形のチューリップ約五千品種が登録されています。

オランダの
国土

オランダの国土は、ライン川の運んだ土砂の堆積により形成されました。南西から北へ伸びる砂丘は、

規模の拡大

オランダでは、近年、球根栽培を行う地域が目立って増加しています。一九六〇年には総面積は一万ヘクタ



▲C・クルシウスの肖像

北海からの天然の堤防となり、その内側は水捌けのよさを利用して、一大チューリップの生産地になっています。粘土と泥炭の内陸部は干拓によって農地化され、その歴史は十三世紀にまでさかのぼります。

昔は、掘った土で堤防をつくり、内側の水を風車の力によって外の運河へ導きました。このため国土の四分の一は海面下ですが、これはオランダ国民が作った土地といえることができます。



ールでしたが、一九九五年には一万八千ヘクタールまで増加しました。一方、生産農家の数は急激に減少しています。一九六〇年代の初めには一万三千戸でしたが、一九九五年には三千戸をわずかに超えるのみです。そのため、近年では、農家一戸当たりの栽培面積は以前と比較すると相当多くなっており、過去三十五年間に農家一戸当たり〇・七五ヘクタールから約六ヘクタールにまで増大しています。こうした規模拡大は機械化の急速な進歩抜きにはあり得なかったものです。

このように球根産業が発展する中、球根の高品質をいかに保証するかが最優先事項とされています。



▲キューケンホフ公園

黒いチューリップへのあこがれ

昔から究極の花色ともいわれる「黒いチューリップ」を作り出すことがチューリップ愛好家たちの最終目標とされてきました。とりわけオランダ人の情熱は伝統的となるほどであり、小説の題材にも取り上げられています。「クイン・オブ・ナイト」や「ブラック・ビューティー」など濃い黒紫色のチューリップはありますが、今日もお、真に黒いチューリップは作り出されていません。



▲クイン・オブ・ナイト

二つの市場

オランダの球根産業は二つの市場を持っています。一つは乾燥状態の球根を販売する市場であり、もう一つは球根切り花の促成栽培に対する市場です。前者は、庭に植えるために球根を購入する消費者に対するもので、その販路としてはスーパーマーケット、園芸センター、通信販売があります。後者は花卉栽培農家に球根を販売するためのものであり、農家では温室で開花を早めて出荷しています。

チューリップの 見どころ

キューケンホフ公園は総面積二十八万平方メートルを誇る世界最大のチューリップ公園です。この公園は球根生産地帯の中心地であるリッセ市に位置し、毎年六〇七百万球の球根が屋内外に展示され、世界中から訪れた人々を魅了します。

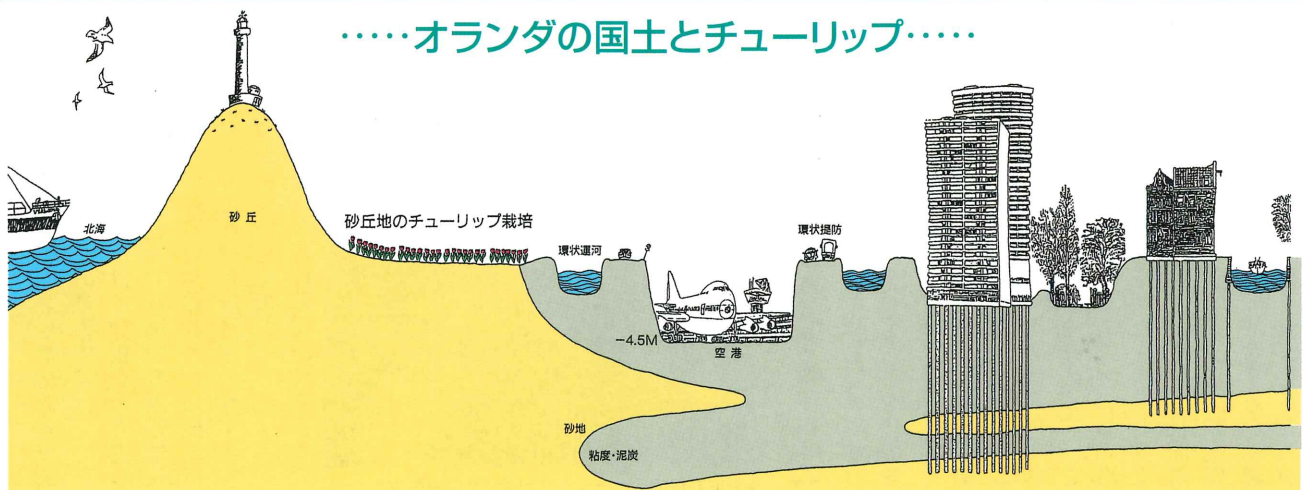
また、チューリップが咲き始める頃になるとサイクリングロードやドライブウェイは花で飾られ、四月の第四土曜日にはオランダの春の風物詩、フラワーパーレードが行われ、チューリップやヒアシンスの花で飾られた山車の行列が連なり、たくさんのお客様で賑わいます。

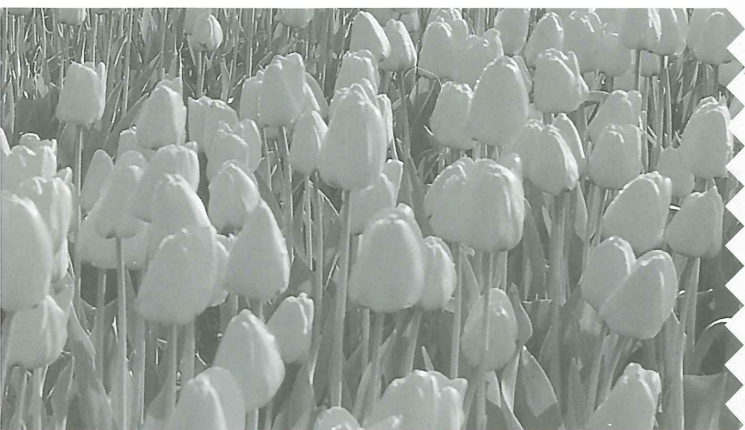
引用文献

オランダの球根栽培

（発行：「オランダ農業・自然管理・水産省」「オランダ国際花卉球根協会」）

……オランダの国土とチューリップ……

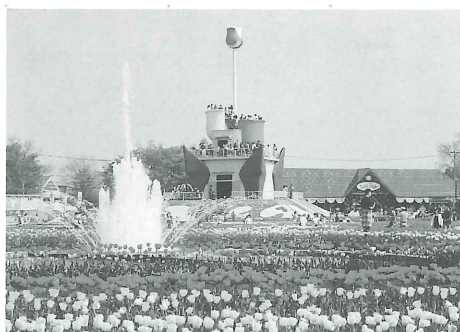




砺波チューリップ公園& チューリップ四季彩館

チューリップ ごよみ

9月	8月	7月	6月	5月	4月
			●五月 この時期の追肥は効果が全くな いだけでなく、病気の発生や球根 の裂皮を促すので行いません。	●五月 開花後、なるべく早く花首を摘 み取ることで球根の肥大促 進とボトリチス病（褐色斑点病） の伝染を防ぎます。 花を摘み取った後、病害虫の発 生に注意し、適宜、薬剤散布を行 うとともに、光合成が最も盛んな 時期なので十分に灌水を行う必要 があります。	●四月中旬～五月上旬 早咲きから遅咲きまで色とりど りのチューリップが花を咲かせま す。
		●六月 茎や葉の大部分が黄変して、球 根の三分の二ぐらいが栗色になっ たら晴天を見はからって掘り上げ ます。掘り上げた球根は古根、古 皮を取り除き、分球をはずして水 洗いし、しばらく風通しのよい場 所で陰干しします。その後、乾燥 したら雨が当たらない日陰の涼し い場所で秋まで貯蔵します。			
器官分化期			球根肥大・充実期	開花・茎葉伸長期	生育段階
●五月中旬～十一月 チューリップ四季彩館スクエア において抑制栽培のチューリッ プ約二千本が見られます。			●四月下旬～五月上旬 となみチューリップフェア 砺波の春の風物詩、「となみ チューリップフェア」は今年で 四十七回目を迎え、砺波チュ リップ公園を中心に三百五十品 種百万本のチューリップが迎 一面に咲き誇ります。 期間中、フラワーショーやミ スチューリップコンテストなど 様々な催しが開催され、大勢の 人々が賑わいます。 *'98となみチューリップフェア とき／四月二十四日（金） 五月五日（祝） ところ／砺波チューリップ公園	●四月中旬～五月上旬 開花・茎葉伸長期	○栽培方法 …地植え…
抑制栽培			普通栽培	促成	栽培法



▲'97となみチューリップフェア



▲促成栽培のチューリップを用いた早春展示
（チューリップ四季彩館テラス）

促成栽培

冬に室内で花を楽しむための方法として促成栽培があります。

夏から秋にかけて球根を十五度（℃）で一週間、五度で八週間低温処理をします。低温処理が終わったら植え付け、根が十分に伸びた後温室に移すとすぐに芽が伸び始めます。

その後一か月程で花が咲きます。

抑制栽培（アイスチューリップ）

アイスチューリップとは、季節はずれの夏から秋にチューリップの花を咲かせる技術です。

まず、十月から十一月に通常の方法でチューリップの球根を鉢やプランターなどに植えます。その後戸外で約一か月発根とその発育を進めます。この段階で鉢ごとマイナス二度（℃）の冷凍庫に入れて生育を抑制させておきます。

開花させる時は、五度で二日間解凍処理を行い、十五度で二日間順化処理を行った後、戸外で栽培すると二週間前後でいつでも花を咲かせることができます。



3月	2月	1月	12月	11月	10月
●三月 雪が融け、急速に葉や茎が伸び始めるころから病害虫防除のための薬剤散布と病害株の抜き取りに努めます。			●十二月 降雪の直前（十二月中旬ごろ）に一平方メートル当たり二十グラムの化成肥料（元肥と同じ種類のもの）を追肥すると効果的です。	●十月～十一月 球根の植え付けは、十月から十一月上旬が適期です。土層が深くて日当たりと排水のよい場所を選びます。植え付けの二～三週間前に、石灰を一平方メートル当たり百グラム混ぜ込み、化成肥料（N 9・P 12・K 18）百グラムを元肥として施します。 植え付ける際の深さは球根の高さの三倍、間隔は球根幅の三倍くらいが適当です。	
期 備 準 育 発					
●十二月～四月中旬 時期によって約二千～五千本の促成栽培のチューリップがスクエアやテラスで見られます。	●二月下旬～三月上旬 春を呼ぶチューリップ展 「春を呼ぶチューリップ展は、「となみチューリップフェア」のプレイベントとして毎年この時期に開催され、今年で十二回目を迎えます。ひと足早く、満開のチューリップ約二万本が早春の砺波を彩ります。 *第十二回春を呼ぶチューリップ展 と き／二月二十日（金）から 三月一日（日）まで ところ／チューリップ四季彩館ホール				
促 成 栽 培			抑 制 栽 培		



▲第11回春を呼ぶチューリップ展

水耕栽培

マンションやアパートで庭がなく土もない人には最適です。

水耕栽培をはじめめる時期は、十月中旬から十一月上旬にかけて球根の発根部がふくれてきたころが目安です。根が伸びるまでは十分に寒さにあて、その後加温するようにします。

発根期間は暗い場所に置き、茎葉が伸びてきたら、なるべく日当たりのよい場所で生育させます。あまり背丈の高くない品種が適当でしょう。

*栽培に適した品種：ベン・パン・ザンテン、メリー・クリスマス、プレルデューム、黄小町など。

市販セットの球根

あらかじめ五度（℃）で八週間程度の低温処理がしてありますので、休眠からすでに覚めています。室内に置いておけば自然に開花していきますが、初期の発芽と発根を順調にするため、はじめの三～四週間は十度前後の冷暗所に置きます。



▲水耕栽培のチューリップ

チューリップ四季彩館
からのお知らせ



第12回

春を呼ぶチューリップ展

●期 間／平成10年2月20日(金)
から3月1日(日)

●場 所／チューリップ四季彩館ホール



◇表紙の写真

～富山で生まれたチューリップ～
黄小町/Kikomachi:農林13号(トライアンフ)
昭和57年(1982年)農林登録。花弁は純黄色。
砺波地方では4月中旬開花。花は大輪で草丈はや
や低く、茎葉が剛直。極めて花もちが良く、促成栽
培や花壇植えに適している。県内球根生産量、作付
面積ともに第一位。オランダでもパテントを持つ。

(財)砺波市花と緑の財団
〒九三九一―一三八一
富山県砺波市中村一〇〇一
☎ 〇七六三―三三―七七一六
FAX 〇七六三―三三―〇〇九〇

チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP
GALLERY